

なし「にっこり」における合成繊維製果実袋の高温障害軽減効果の実証

要約

なし「にっこり」の高温障害対策として、遮光率の高い合成繊維製果実袋を満開後60日頃の幼果に被覆することで、果実の日焼けやみつ症状の高温障害の発生を一定程度軽減できることを確認した。

○ 展示のねらい

安足管内では、近年、夏季の高温によるなし果実の日焼けやみつ症状等の果肉障害が増加し、品質低下が大きな課題となっている。

そこで、かんきつ等で使用事例のある日焼け防止資材「合成繊維製果実袋」を用いて、なし「にっこり」の高温障害軽減効果について実証した。

○ 主な成果

合成繊維製果実袋の黒色及び白色を用いて、満開後60日に幼果へ被覆し、収穫果実の高温障害発生程度について調査した。

その結果、果実の日焼け及びみつ症状については、合成繊維製果実袋の黒色>白色>袋かけなしの順に発生が少なく、遮光率の高い果実袋ほど軽減効果のあることが確認された。

果実品質は、熟度の違いもあり、果実袋の種類による差は判然としなかった。



写真 合成繊維製果実袋の被覆(幼果時)

表 なし「にっこり」における合成繊維製果実袋の高温障害軽減効果

果実袋の種類	高温障害発生指数		果実品質		
	日焼け ^{注1}	みつ症状 ^{注1}	地色	糖度%	果重 g
黒色	1.0	0.5	5.2	13.4	766
白色	1.7	1.4	4.8	13.0	905
袋なし	2.3	1.6	4.9	13.7	763

注1) 日焼け：0無、1軽、2中、3多 みつ症状：0無、1軽、2中、3多

注2) 日焼け防止資材「合成繊維製果実袋」の遮光率：黒色95%、白色65%

○ 今後の方向性

合成繊維製果実袋の軽減効果については、ほ場や樹体による差があったことから、継続的に調査を行い、効果が安定していることを確認した上で、普及性を判断する必要がある。

また、使用に当たっては、収穫時の取り外しに手間がかかったことから、品種に応じた袋のサイズや使用方法等についても併せて検討が必要である。

実施機関：安足農業振興事務所経営普及部 実施場所：佐野市

問合せ先：栃木県農政部経営技術課技術指導班 TEL 028-623-2322 FAX 028-623-2315